

# 観光客飲み込む「陶醉」

能登で満員電車の気分を味わうのは、この時くらいだろう。七尾市石崎町の石崎奉燈祭。大奉燈の乱舞が繰り広げられる広場は、住民と見物客でぎゅうぎゅう詰めとなった。

今年には北陸新幹線開業、能登道七尾水見道路開通のほか、NHK連続テレビ小説「まれ」にキリコが登場し、さらには文化庁の日本遺産認定らるか、石崎奉燈祭の見物客は例年より増えたという。

広場には旅館の浴衣を着た観客が目立った。近くの和倉温泉から続々

と歩いてくる宿泊客である。同温泉旅館組合によると、祭り当日はすべて満室。親戚と一緒に北陸新幹線までやってきた横浜市の会社員三山

裕也(58)は「本物ほでかい、勢がいい」と来てみて分る祭りの勢

と歩いている宿泊客である。同温泉旅館組合によると、祭り当日はすべて満室。親戚と一緒に北陸新幹線までやってきた横浜市の会社員三山裕也(58)は「本物ほでかい、勢がいい」と来てみて分る祭りの勢

## 滞在型観光に

新幹線で湧全県から、さらに能登まで観光客呼び込む手段として、キリコ祭りへの期待は大きい。

## キリコと

## 生きる

## 日本遺産

▶15◀

キリコが出る能登の6市町や観光団体、石川県などは、日本遺産登録を受けて活性化協議会を設立し、ネットを使った情報発信や、担き手体験事業などに取り組んでいくことになった。関係者か



大勢の観客が見守る中、勇ましく乱舞する大奉燈  
＝1日、七尾市石崎町

# 過疎の逆境の中、継承へ

らは「キリコ祭りは夜。滞在型観光につながる」との声が上がる。ただ、課題もある。素朴な能登の祭りにおいて、宿泊先、駐車場確保、安全管理の態勢はまだ整っていない。

石崎奉燈祭奉賛会の赤坂明実行委員長は「観客の多さは担き手の励みになるが、これ以上の受け入れは難しい」と本音を漏らす。地域のエネルギーが結集する「氏子の祭り」を、千客万来の「観光イベント」とどう調和させるのかは探りの状態だ。

## 風土を集約

長年、キリコ祭りを研究してきた珠洲市の民俗研究家の西山郷史さん(68)は「キリコ祭りには歴史や精神世界を忘れてはいけない」と指摘する。キリコには能登の歴史や風土人々の暮らしが集約されている。現代なら、過疎という逆境の中、祭りを持続しようとする人々の思いも凝縮される。

石崎奉燈祭も、土着エネルギーがほとぼりしていた。一心不乱に大奉燈を担ぐ男、声援を送る女。太鼓や笛、鉦の音が大きくなって、町の興奮は増していく。「サッカサイ、サッカサイ」。気づけば観客も一緒に口ずさみ、陶醉する。

「俺らの祭りすっぞぞぞ、どこかの担き手が声を上げていた。能登のキリコ祭りは、その土地のおいさが、ぶんぶんしている。それはどこか懐かしくて、それでいて、見ている者にも染み渡っている。」(森田奈々)